

令和6年度 第2回焼津市多文化共生推進協議会 議事録

日 時	令和7年1月29日（水）午後1時30分から午後3時
場 所	焼津市役所7階 第2委員会室
出席委員（10名）	高畑幸会長、小林伸生委員、鈴木和子委員、伊藤恒章委員、増井喬生委員、飯妻宏典委員、タンプス・ルイス・エヴェリ・トリオン委員、小林ミーハン委員、ヤンジカ・ソラ委員、平野一恵委員
事務局（5名）	服部部长、吉川課長、高川主幹、奥川事務員、清水
欠席委員（1名）	須方正和委員

会議内容

- 1 開会
- 2 市民環境部長挨拶
- 3 報告事項
 - (1) 「はじめての日本語教室」実施報告
 - (2) 国際理解講座「世界の家庭料理教室」実施報告
 - (3) 国際理解講座「みんなでカロリングを楽しもう」実施報告
- 4 意見交換「テーマ：防災」
 - (1) 地域防災課による発表
 - (2) グループで意見交換

(ア) 外国につながる市民に正しい防災意識を身に付けてもらうためにはどうしたらよいか。

(イ) 有事の際に備え、地域住民同士が顔の見える関係を築くためにどうしたらよいか。
- 5 講話（講師：高畑会長）

「テーマ：技術・人文知識・国際業務（技人国）の在留資格で働く人たち」
- 6 閉会

配付資料

- ・ 次第
- ・ 焼津市多文化共生推進協議会委員名簿
- ・ 報告事項
- ・ 高畑委員長講話資料「技術・人文知識・国際業務（技人国）の在留資格で働く人たち」

会議概要

- 1 開会（事務局）

欠席者は1名（須方正和委員）

2 市民環境部長挨拶

外国籍住民の人口は5,787人で、10年前と比べて2,741人の増加となっている。静岡県が「静岡県多文化共生基礎調査」を4年ぶりに実施し、外国人と付き合いがある日本人が増加、また外国人が行政に望むサービスとして、多言語での情報提供や相談、差別意識をなくすよう啓発、災害時のやさしい日本語や多言語での情報の提供を求める声が多いことが分かった。今日は、意見交換のテーマが「防災」なので、様々なお立場の委員の皆さんのご意見をお聞かせいただき、今後の市の取り組みの参考にさせていただきたい。また、行政としても、多文化共生の意識啓発を進めていきたい。

3 報告事項

別紙「報告事項」のとおり報告

4 意見交換「テーマ：防災」

（1）地域防災課による発表

防災に関する言葉は難しいものも多いが、外国につながる市民の皆さんにも、防災に関する基礎知識（事前準備、災害時の行動、避難場所、避難した後の生活、在宅避難について）を身に付けてほしい。そのために、市としても、多言語版の資料を作成したり、コミュニケーションボードを活用したりと取り組みを進めている。防災委員長の集まりでも、「地域に生活する外国人が増えてきたため、防災訓練に参加してほしい。」や「参加した外国人と一緒に避難タワーに上れてよかった」との話があった。年3回実施する防災訓練には、ぜひ外国人も参加してほしいが、回覧板を回しても情報が伝わらなかったりと、周知の方法が課題である。

（2）委員は2つのグループに分かれて意見交換をした。

<グループ1>

小林伸生委員、増井委員、飯妻委員、小林ミーハン委員、ヤンジカ委員、（地域防災課 鈴木、協働推進課 清水）

<意見交換テーマ>

外国につながる市民に正しい防災意識を身に付けてもらうためにはどうしたらよいか。

<意見交換概要>

【小林ミーハン委員】

ベトナムには地震はないが、風水害が頻繁にある。事前準備や災害時に取るべき行動は、SNS や新聞、テレビで情報を得ることが多い。近隣に住むベトナム人は、夜勤をしている人も多く、防災訓練があることを知らない人も多い。アパートの管理人や勤務先の会社等から防災訓練について案内してもらおうとよいかもしれない。また、週末に働いている人もいたので、防災訓練に参加できるように会社が考慮してくれると参加しやすいと思う。

【ヤンジカ委員】

モンゴルでも地震はほとんどなく、地震がどんなものか知らないし、どうしたらいいのかわからない人が多い。最近では、モンゴルでも大学や会社で防災の授業を年1回程度やっている。地域に住むモンゴル人は、言葉の壁もあり、防災訓練に参加することには勇気がいる。訓練に参加して外国人が自分一人だけではないかと心配になる。近所の人等が、訓練への参加を誘ってくれたり、訓練中にサポートをしてくれるなど、間に入ってくれる人がいれば安心かもしれない。外国人も1回参加してみれば、その体験を、他の人と共有することができる。

【小林伸生委員】

外国人を対象にした防災講座を行うことで、正しい知識を身につけてもらうことができるのではないかと。また、外国人の集まる場所に起震車を持っていき、体験してもらうこともよいかもしれない。防災センターの体験施設もよいと思う。

【飯妻委員】

地震の映像を見てもらったり、回覧板で多言語の防災訓練の案内を周知させたり、多言語で地震について書かれたチラシなどで理解してもらおうとよいのではないかと。

【増井委員】

防災について楽しく学ぶことができるよう、クイズにしたらどうか。日本語教室などで、防災に関する○×クイズをおこなうことで、知識を身に付けてもらうことができる。また、外国人に参加してもらうためには、事業所の後押し、協力、理解が必要だということがわかった。

<グループ2>

鈴木委員、伊藤委員、タンプス委員、平野委員（地域防災課 島田、協働推進課 奥川）

<意見交換テーマ>

有事の際に備え、地域住民同士が顔の見える関係を築くためにどうしたらよいか。

<意見交換概要>

【鈴木委員】

近所の日本人で頼れる人を見つけておくことが大切。近所で外国の方を見かけたら世間話でも良いので声をかけて会話をする。外国の方から声をかけるのは難しいと思うので、日本人側が積極的に声をかけてほしい。

以前は、地域の運動会やまつりがあれば、それに皆参加していたので、近所の人同士顔を知っていたけど、今はそういうことも少なくなっている。

【伊藤委員】

自分の自治会でも、地域のお祭り等への参加は自主参加のため、参加者は年々減ってきている。しかし、参加してくれる人は誰でも歓迎なので、近くで地域のイベントがやっていたらぜひ行って見て、近所の人と仲良くなってほしいと思う。

【タンプス委員】

外国人コミュニティがあるので、行政の情報があれば、コミュニティの中で発信するようにしているが、そもそもその情報が届いていない。情報は主に Facebook で共有していて、LINE はあまり使っていない。防災訓練の案内も来るけど内容が難しく、参加してよいのかも分からない、参加したら迷惑になるのでは、と考えている人もいる。子どもは学校で防災訓練をやっているから防災のことを知っていても、親は知らないということもある。自分は近くに頼れる日本人がいて、いろいろ聞くこともできるが、まったく近所付き合いがない人もいる。

月曜日から土曜日まで仕事、日曜は休みでも休養や家族と過ごしたいので、地域のイベントや防災訓練になかなか行けないという面もある。

【地域防災課 島田】

自治会の方のアンケート結果で、外国の方にも防災訓練にぜひ参加してほしいという意見が多かった。皆さんウェルカムの気持ちでいるので、参加して大丈夫なのかと思っている方がいるならば、不安に思わずにぜひ参加してほしい。

<高畑会長よりまとめ>

防災訓練に誘う人を増やすということは大切。また、他の市町では、自治会の中に、「多文化共生担当」を配置しているところもある。そうすれば、その担当者が、外国人への声掛けやサポートを担うことができる。

5 講話（講師：高畑会長）

<テーマ>技術・人文知識・国際業務（技人国）の在留資格で働く人たち

詳細は別紙資料のとおり。

・技人国とは、通訳、語学教師、機械工学等の技術者など「大学などで身に付ける専門知

識を生かして働く人たち」のことであり、留学生の増加に伴い、技人国での滞在者が増加している。家族帯同が可能で、雇用契約が続く限り、滞在延長可能。学歴、専門知識は必須だが、在留資格取得に日本語能力要件はない。

- ・留学生として、日本の大学や専門学校で学び、その後日本で就職するパターンと、海外から直接雇用されるパターンがある。後者には、行政が仲介するケースもあり、静岡県でも、2019年度より「静岡県海外高度人材活躍支援事業」を行い、県内の中小企業を対象に、モンゴルやインドネシア、ベトナム等からの高度人材の受け入れを促進している。
- ・同伴する家族は日本語習得の義務がないため、言葉の壁、習慣の壁から、地域から孤立する可能性がある。彼らが地域に馴染むよう、交流の場があるとよい。

6 閉会

- ※ 今年度の協議会はこれで終了。委員の任期は令和7年8月までのため、何かあれば改めて連絡をする。